



## 南相馬市内の学校給食に「油菜ちゃん」採用決定！

(神野 英樹)

去る11月9日(月)、南相馬市内の小中学校(全12校)に、学校給食用の食材として各学校に一斗缶(16kg/缶)で2~3缶、全部で31缶の「油菜ちゃん」の配達が完了しました。この「油菜ちゃん」は、今年収穫したばかりのなたねを使用し、搾油~濾過~缶詰~包装まで、地元の「信田沢搾油所」で一貫生産された商品です。『是非とも、新鮮で美味しい生搾りの「油菜ちゃん」を子ども達に届けたい!』…という願いを込めて、10月上旬より約1ヶ月間かけて搾油した「一番搾り!」です。



「油菜ちゃん」の生産で大活躍している一人の女性を紹介しましょう。彼女は、2年半前に単身で鳥取から南相馬に移り住み、「農地再生協議会」の杉内代表等の指導を受けながら、なたねや水稻・大豆栽培を担う「アグリあぶくま」と、なたねの二次加工を担う「再生協」を行き来して、素晴らしい仕事をこなしています。彼女は、今ではコンバインも乗りこなし、なたねの生育状況を把握しながら搾油の最適条件を研究し、安全で美味しい「油菜ちゃん」の提供に日々挑戦しているのです。

さて、我が日本でも、ついに学校給食に光が差し始めたようです。去る9月25日には、東京の世田谷区で「世界中に広がるオーガニックの波、子ども達の学校給食を有機食材にする全国集会」が行われ、元農水大臣の山田正彦氏を始めとして、日本各地で活動をされている自治体関係者や母親たちなどの報告や意見交換が行われました。

学校給食を有機食材に変えていく動きは、地域の自然を守り、日本の食糧生産を守り、農家さんの経営を保障し、人々の命と健康を守る未来をつくる動きにもつながっています。日本にもこのような活動が着実に始まっていることに大きな希望を感じます。

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞 本館5階B

### NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号297)

口座番号：普通 1682863

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

\* 5年前に電話番号が変わっています。お間違いがないようもう一度ご確認ください。

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

南相馬農地再生協議会では、毎月一回会議を開き、ナタネの栽培、油の製造・販売等について協議しています。参加者は、地元南相馬の方々をはじめ、菜の花プロジェクトネットワークの藤井さん、再生協の理事である星野さん、チェルノブイリ救援・中部のメンバー3名など、滋賀県・愛知県・埼玉県など遠くからの参加があります。私も、同日に時間をずらして開催される「油菜のさと 実行委員会」に参加している関係で、再生協の会議にも昨年顔を出すことになりました。

これまでは、南相馬の状況をチェルノブイリの名古屋会議で聞いていただけで、深く知ることができなかったのですが、会議に参加しはじめて実際に南相馬に来なければわからないことが理解できます。長野県の伊那から高速道路を走って、片道8時間ハードな行程ですが、これもだいいな役目と考えて会議に参加し、報告をさせていただきます。

## 1. 油菜ちゃんの販売状況

再生協では、これまでナタネを栽培しナタネ油やドレッシング等に加工して、南相馬をはじめ各地の皆さんに買っていただきました。その中でも売り上げの多かったのは、ラッシュジャパンでした。ラッシュジャパンには、当初から石ケン用として買っていただきましたが、今期は購入していただかなくなっておりピンチです。

そこで、新しく販路の開拓を始めたところですが、幸いなことに地元南相馬市の学校給食に使っていただけることになりました。当面の受注は一斗缶31缶（フライ用など）です。

販売に関しては現在、酸化を防ぐため遮光瓶とすること、瓶の大きさを2種類程度にすること、業務用に一斗缶販売を勧めること、食油会社への種での販売営業にも取り組んでいます。

また、油単独ではなく、従来のマヨネーズ・ドレッシング・ラー油・バームに加え、スキんクリーム・乳液・石鹸・菓子・パンなどへの利用を拡大すべく、試作品にも一部取り組み始めました。

\* なお、現在マヨネーズは、分離問題があるので製造を中止しています。

## 2. 濾過装置導入の見通し

先にも触れましたが、油の鮮度を保つため遮光

瓶の採用の検討を始めていますが、酸化を防ぎ鮮度を更に保つために、製造工程の見直しに着手しています。酸化は、空気との接触時間や蛍光灯の光との接触時間で起きるので、これまでコーヒー濾紙で濾過していたものを、濾過装置を導入して時間短縮する取り組みを開始します。

## 3. 信田沢搾油所用地買い取りの件

これまで搾油は、南相馬市の信田沢に市から土地とプレハブ建屋を借り、この建屋で油の製造をしてきましたが、南相馬市の方針として「賃貸ではなく土地を売却する」旨の打診があり、内部で協議したところ購入を目指すことになりました。土地面積は1,757m<sup>2</sup>（532坪）、プレハブ建物付きです。搾油を進める上で土地建物は不可欠ですが、問題は資金にあります。今後の検討課題ではありますが、できるだけ借入金を減らしたいと考えており、出資金・寄付を募らせていただく事を検討しています。具体的なお願いは今後になりますが、その際はよろしくお願ひします。

## 4. 飯館村産ナタネの購入について

南相馬市でのナタネの栽培、油の生産が行われるにつれ、お隣の飯館村でもナタネ栽培の機運が高まり、これまで試験的に搾油のお手伝いをしてきましたが、今季、飯館村の3者からナタネの購入の依頼があり、再生協との間で次年度産ナタネの買い取り契約が結ばれる運びとなりました。買取数量は最大10トンの予定です。

## 5. 「油菜のさと」実行委員会 報告

「油菜のさと」は、南相馬で菜種油を中心に地域再生をはかる一つの拠点です。夢はいろいろあるのですが、取りあえずは菜の花プロジェクトの主目的である、ナタネの搾りかす（油粕）から放射性物質を取り出して分離し、油粕を安全な液肥として畑に戻すこと。同時にガスを発生させエネルギー利用する「バイオガス施設」が中心になります。そこで、バイオガスとはどんなものか勉強することになり、昨年と今年10月に勉強会を開き、今年は農研機構の中村真人さんに講演をいただきました。バイオガス装置は、三井物産の助成を得て、実験規模のミニバイオガス装置を杉内代表のビニールハウスで建造中です。

## 新コーナー

MOTTO  
油菜ちゃん

「油菜ちゃん」誕生から早6年。おかげさまで、南相馬ではすっかりお馴染みの商品になりました。でも、もっと多くの方々に「油菜ちゃん」を知ってもらいたい、味わってもらいたい！ この新コーナーは、そんな思い満載でお届けします。読者の皆様とも、双方向で情報発信していきたいです。ぜひぜひ情報・質問なんでもお寄せください！

### ♪ マルシェ出店情報

笠寺観音では、毎月 第4土曜日の10時～14時、マルシェ「かんのひろば」を開催しています。チェル救も今後出店する予定です。ぜひお立ち寄りください。(名鉄名古屋本線 本笠寺駅から徒歩3分。P7も参照してください。)

また、名古屋市近郊のマルシェにも、出店を計画しています。決まり次第、HP・ポレーシエでお知らせいたします。

### ♪ 油菜ちゃんラインナップ情報

現在、「油菜マヨ」は生産を一時停止しています。「油菜マヨ」は、添加物(乳化剤)を入れないため、賞味期限前でも分離することがあり、その対策を協議中です。分離していても品質には全く問題ありませんので、「油菜マヨ」をお買い上げの方は、安心してお召し上がりください。

### ♪ 油菜ちゃん DO クッキング(レシピ・アイデア募集中)

「油菜ちゃん」を使ったお料理やスイーツのレシピ、アイデアをお寄せください。写真も大歓迎です。

### ♪ 油菜ちゃん DO 科学 DO 健康UP

健康長寿を目指す方には、「油菜ちゃん」は最適・最強の油であること間違いなし。その理由を丁寧に解説していくコーナーを予定しています。乞うご期待！



今年は、コロナの影響でイベントなどが相次いで中止となり、イベントでの売上が収益の柱である「油菜ちゃん」は、大打撃を受けました。

再生協の倉庫には、ナタネの在庫が積まれています。この在庫の山を減らすのに、ぜひともご協力いただけないでしょうか。

「油菜ちゃん」は、福島県内の道の駅や一部店舗で販売していますが、それ以外ではお取り寄せとなります。送料は別途申し受けますので、ご了承ください。

ご注文・お問い合わせは、**チェル救事務所**または**農地再生協議会**までお気軽にご連絡ください。

■チェルノブイリ救援・中部 事務局

TEL/FAX 052-228-6813

Email chqchubu@muc.biglobe.ne.jp

■南相馬農地再生協議会 事務所

TEL/FAX 0244-23-5611

Email minamisoma.nouchisaisei@gmail.com

## 【ウクライナ情報】

(事務局 山盛三千枝)

ホステージ基金（ドンチェヴァさん：右写真）より、10月から11月第3週までに届いたウクライナ情報をお伝えします。



### ☆ 事故処理作業支援



ホステージ基金・ドンチェヴァさんは、事故処理作業者の基金の代表者たちと会い、改めて支援のシステムについて話し合った。長い討論の結果、事故処理作業者たちは今年、現金の形で支援を受け取ることになった（名簿を作成し、金額と署名を書き込む）。

時をあらため、事故処理作業者の基金の代表者たちと会い、基金のメンバーたちについて聞いたところ、すでに多くの人がかかり高齢に達していて、多くは家に閉じこもっているか、（病気をたくさん抱えているため）寝たきりになっているとのこと。ある事故処理作業者の女性（トルーニナ）がコロナウイルスに感染し、1日8回点滴を受けて、腕が全部青くなってしまったが、生き延びて自宅に戻ってもう1ヶ月になる由。一方、1986年（チェルノブイリ事故当時）、キエフ州イヴァンキウ地区[現在は第2ゾーンで人が住んでいない]の警察署の署長だったニコライ・ゼレンスキーは、いつも妻のアンナと一緒に「救援・中部」派遣団に会いに来ていたが、亡くなった。

### ☆ ジトーミル州立成人病院への支援

支援の一部、23,000グリヴナ（約84,000円）は、州立成人病院のチェルノブイリ・セクションに配分されることになった。以前は心電計を配備したいということだったが、COVID-19（新型コロナウイルス）のウクライナでの一日あたり新規感染者数は記録を更新し続けており、そのため同セクションの主任医師は、涙ながらに、遠隔体温計・パルスオキシメーター・肘で押す消毒液スタンド・酸素濃縮器の購入を申請してきた。「まず人工呼吸をして、自力呼吸ができるようにし、その後で高血圧の治療という状態です」と、ナターリヤ医師は語っている。残念なことに、このような機器の価格は急騰しているのだが、長年の協力者であるメディサン社は、値上げ幅を最小限に抑えると約束した。



### ☆ 新型コロナウイルス(COVID-19)情報

#### 10月15日

急激に悪化。州内で一日あたりの新規感染者数は180人近く、すでに計130人が亡くなっている。今日の時点で感染者総数は7,500人。ジトーミル市内のある病院の心臓病専門医である元同級生の話は、ひたすらぞっとさせるものだった。眼科・泌尿器科・内科は、コロナウイルス感染者用に改組され、神経科は閉鎖されて、集中治療室にいた脳卒中の患者と外科の救急患者は、心臓病の集中治療室に移されたとのこと。病院は満床状態。ジトーミル市内の患者は、

まだ空きのあるアンドルシウカとチェルニャヒウ地区病院に運ぶことになった由。学校や幼稚園は開いていて、公園は大変な人出。建物の中では、マスクを着けた人をますます多く見かけるようになった。

### 10月23日

一日あたり新規感染者数は、7,000名を超えた。

### 10月28日

ウイルスは地球上を跋扈していて、今では多くの人が、これは冗談や政治家たちのお決まりの嘘八百ではないということを理解している。病院は患者で溢れかえっており、今やコロナウイルス感染者は、アンドルシウカとチェルニャヒウの地区病院に搬送されているが、そこでの受け入れ態勢はひどいもの。できるだけ多くの患者が自宅隔離するよう指示されており、州行政庁でもいくつかの部署でそのような人がいる。『ジトーミル州』の編集部でさえも。私はアントニューク（事故処理作業員。元ジトーミル州消防署長）と電話で話したが、彼は非常に真剣に「病気になんかなるんじゃないぞ。状況は非常に深刻で、人工呼吸器も不足しているし、医者も看護師も足りない。病床も足りないから、地区病院に回されているんだ。気をつけろ」と。ジトーミル市もすでに赤いゾーンに分類された[注]ので、予防措置は非常に厳しいものとなっている。

[注] ウクライナ保健省の定める、COVID-19 感染状況による地域の色分け（緑・黄・オレンジ・赤の4段階）中、赤は最も警戒が厳しいゾーン。

コロナ・パンデミックは継続中で、日常生活の不確定性は続いているが、暮らしは何とかやっている。私は元気で、規則通りの仕事をやろうとしている。病気になりたくはないので。春の状況と今を比べると、皆、感染者のクラスターは親友か近親者からなっている事に注目している。このことは、この病気が実際に身の回りにあり、全ての人にとって脅威であることを誰もが理解していることを意味する。

## ☆ クリスマスカード・キャンペーン

クリスマスカードは、船便で送っていただいてもかまわない。こちらでは1月の祝日が正教のクリスマスや旧正月など、いろいろとあるので1月に入っても大丈夫。

肝心なのは学校が休校にならず、子どもたちが自宅待機状態にならないこと。



数は例年ほどにはならないと思うが、

クリスマスカード 2020 キャンペーンの呼びかけを行うことを決定した。

11月に入り、12番学校でもカード作りを行っている。11月21日付で、クリスマスカード・キャンペーンの最終段階に入っているとの連絡あり。

（翻訳：竹内高明）



## きのこ 1万 Bq/Kg、川魚 1.3万 Bq/Kg

## ——— 今も続く放射能汚染 ———

福島原発事故からもうじき 10 年目を迎える。政府やマスコミは、「福島は終わった」かのように世論を誘導し、宮城県知事は、福島事故以来停止していた女川原発の再稼働を認め、福井県では、老朽原発再稼働に向けて行政が動き出した。高レベル廃棄物を受け入れれば町は栄えるとする行政も現れた。こうした動きは、何れも福島原発事故の風化の表れである。だが、放射能汚染は今も厳然と続いている。「放射能測定センター・南相馬（通称：とどけ鳥）」のデータを紹介し、福島の今とこれからを考えたい。放射能を無視すれば、そのつけは必ずやってくる。

## キノコや山菜の汚染・最新情報

事故直後の野菜や果物・コメなどの汚染は、誰でも記憶に残っているだろう。しかし、野菜やコメなどの汚染が次第に低下し、9 年経った現在は殆どが検出限界以下となり、食べる事に大きな支障はなくなった。

原因は、土壤中の放射性セシウムは年がたつにつれて土壤に固着し、水に溶けなくなったからだ。ところが、キノコや山菜は依然として強烈な汚染が続いている。

とどけ鳥がこの 10 月に測定したキノコの検体数は 58 検体、その多くが驚くべき高濃度の汚染である。

**マツタケ**：最高 13,858 Bq/Kg、平均 5,710 Bq/Kg (6 検体)、地元住民が最も好きな**イノハナタケ**：最高 71,534 Bq/Kg、平均 7,634 Bq/Kg (35 検体)である。山菜は 2019 年 4 月のデータだが、**ゼンマイ**：最高 10,097 Bq/Kg、平均 6,967 Bq/Kg (2 検体)、**フキノトウ**：最高 8,054 Bq/Kg、平均 1,240 Bq/Kg (8 検体)、**ワラビ**は最高 683 Bq/Kg、平均 238 Bq/Kg (5 検体)である。

キノコや山菜が、セシウムで高濃度に汚染する原因の一つは、土壤中の慢性的なカリウム不足である。カリウムは水に溶けやすく、山野の表層土壌には極めて低濃度だが、セシウムは土壌表面(～20cm)にある。その結果、キノコや山菜は、化学的性質がカリウムに似たセシウムを大量に吸収する。こうした汚染傾向は数十年続くだろう。セシウム<sup>137</sup>の半減期 30 年を経て、やっと半分になる。除染が行われない森や山野の生物の汚染は、今後も続くことを忘れてはならない。

## 川魚は今も高濃度汚染

南相馬市小高区の住民 S さんは、自宅にシンチレーション測定器を備え、様々な物体の放射性セシウム汚染を現在も測定している。そのデータを一部紹介したい。今年 7 月に彼が小高区に隣接する浪江町のダム支流で採取した、川魚の測定結果である。それによると、**イワナ**は最高 13,683 Bq/Kg、平均 8,652 Bq/Kg (5 検体)、**ヤマメ**は 1 検体 10,444 Bq/Kg という高濃度である。

川魚は、汚染した山からの餌や苔を食べるため、こうした高濃度汚染になる。この傾向も今後長く続くだろう。こうした傾向は何れも、チェルノブイリでも起こった事である。

## 破壊される自然環境

私は毎月、南相馬に行くたびに、必ず川や山野を観察するが、この数年に起こっている大きな変化に心が痛む。事故直後は、放射能汚染がひどかったにも拘わらず、河川や溝にはたくさんの魚や蟹・昆虫がうごめいていた。人間が居なくなった結果、自然は彼らの天下になったからだ。しかし年月が経つにつれて、河川から魚や昆虫が次第に姿を消し、今ではどこの川も季節に拘わらず、殆どその姿を見かけなくなった。魚や昆虫が繁殖能力を失い、生存できなくなったと考えざるを得ない。元気なのは植物だけだ。放射能は遺伝子を破壊し繁殖能力を奪うが、生物には壊れた遺伝子を修復する酵素がある。その結果我々は生きていられる。この酵素が動物には 1 種類だが、植物は 2 種類持つので繁殖を維持出来ているのだ。

(2020 年 11 月 26 日 河田)

## 種まき会&環境フォーラムに参加 (戸村京子)



9/20(日)、南相馬市の菅浜(かいほま)での菜の花種まき会は、曇り空。雨に備えて持参した長靴は、蒔いた種を踏みながら圃場を幾度も往復しました。耕された畝を山筋谷筋と横一列に並び、蒔き進みます。隣り合わせになった参加者の方と話したりしながらも、何歩歩いたのか万歩計を持たなかったのが残念なほど、折り返した畝数をカウントすれば、日ごろの散歩コースを超えた距離だったかと思いました。例年はもっと人数が多いと思いますが、今年は限定された参加人数だけど、隣には淡路島や滋賀の菜の花プロジェクトネットワークのメンバー、大阪からの大学の先生、福島県からの衆議院議員、南相馬市役所職員の方々など、多彩な顔ぶれと種まきをすることができました。例年は昼食作りのため、種まき作業の圃場では見かけない、再生協女性部の皆さんも一緒でした。蒔き終えて、「春の一面に黄色い菜の花の花盛りが楽しみだね」と話していました。午後の太田生涯学習センターでの環境フォーラムでは、バイオガスの専門家のお話があり、席の後部の机に、販売用「油菜ちゃん」製品のほか、チェル救河田さん特製の「油菜ちゃん石けん」「泡のハンドソープ」や「手作り化粧品(リップクリーム・保湿クリームなど)」を並べました。東日本大震災と福島第一原発事故から間もなく10年。復興とは、田畑や経済社会とともに、一人ひとりの心と生活が前を向いて進んでいけることでなければなりません。私たちチェルノブイリ救援・中部は約30年間、ウクライナ・チェルノブイリ原発事故被災者の支援を試行錯誤で続けてきましたが、福島の支援も同様です。事故後の時間・年の経過によって変わってくるものであり、被災された皆さんにどれほど寄り添えてきたのか？ 自らの活動を振り返り反省し、その上に立ってこれからの支援活動の再考を痛感する2020年の秋となりました。

## 「油菜ちゃんショップ」-手作りマルシェ「かんのんひろば」に初出店！ (戸村京子)

10/24(土)、名古屋市南区の笠寺観音で開かれる手作りマルシェ「かんのんひろば」に、「油菜ちゃんショップ」を出店しました。この手作りマルシェ「かんのんひろば」は、手作りの日用雑貨や食の安全にこだわったお店が、笠寺観音の境内に30~40店が並び、地元の女性3人が運営するマルシェです(毎月第4土曜日10時~14時開催)。実はその一人が知り合いで、「手作り品なら誰でも出店できるのよ」と誘ってもらったのです。ナタネ油「油菜ちゃん」をはじめ、手作り石けん(固形石けん、泡石けん、昔懐かし紙石けんも!)やスキんクリーム・リップクリームなど、持ち込んだ折りたたみテーブルに所狭しと並べました。この日のショップメンバーは、「油菜ちゃん製品」の開発担当の河田、販売担当の市原、総合マネージャー(?)の山盛、荷物運びの戸村と、初出店とあり4人がかり。我々が「油菜ちゃんショップ」のお隣は、なんと旧知のタカハシさんの手作りケーキ屋さんで、この日のために購入した新品パラソルが手違いで建てられず日差しに困っていたところ、「どうぞお入り」とご自分のテントの半分を空けてくださいました。タカハシさんにいろいろマルシェ出店の情報を教えてもらい、さらに美味しい手作りケーキの差し入れにも感謝しながら、私たちもお客の呼び込みに頑張りました。またこれまでと違ったお客さんに、



南相馬産ナタネ油「油菜ちゃん」の良さを紹介できました。売り上げは出店料500円をお支払いしても予想以上で、マルシェデビューとしては上々でした。少し落ち着いたころ、辺りのお店を眺めたり、いろいろな手作りを物色したり、お昼ご飯に手作りのお弁当を買ったりと、楽しい一日でもありました。そして、人のつながりはありがたいと感謝しながら、「よし、来月のマルシェにも出店しよう!」と店仕舞いしました。

## 2020年冬 年末カンパのお願い

(理事長 池田光司)

いつもチェル救をご支援くださり、ありがとうございます。今までに、何度も財政危機に陥りながらも、みなさまの温かいご支援により危機を切り抜け、チェル救は今、30年を超えて活動を続けていこうとしています。本当に感謝に堪えません。

来年は、チェルノブイリ原発事故から35年、福島原発事故から10年となります。チェルノブイリはもとより、福島でさえも事故は風化し、日々の暮らしの中で、人々の意識にのぼることはほとんどなくなってきました。また、来年を「事故は過去のもの」と区切りの年にしようとする空気も感じられます。しかし、放射能汚染は現前し、汚染地で暮らさざるを得ない方々も何万人、何十万人とみえます。チェル救は、微力ですが、汚染地に暮らす人々とのつながりを大切にして、原発事故を乗り越えて生きようとされている方々に寄り添い励ましなが、今後も活動を続けていきたいと考えています。また、原発事故を次の世代に伝えていく役割も、積極的に担っていきたくて考えています。来年を、原発事故を乗り越えるための、次の10年のスタートにしたいと思ひます。

みなさまのご支援をいただき、加えて活動の内容も見直して費用を削りながらも、チェル救の財政は厳しい状況が続いています。現在ある手持ちの資金は今年度の活動で底をつき、来年度を迎えるための資金がない状況です。新型コロナウイルスの影響もある中、みなさまにご支援をお願いするのは心苦しくもありますが、敢えてお願いします。ご寄付をよろしくお願いします。チェル救を応援してください！

チェル救の活動をよくご存知の方にとっては、不要な情報になるかもしれませんが、チェル救の取り組み組んでいる主な活動と財政状況を、あらためて以下に記します。ご寄付を考えるにあたっての参考としてください。

### <ウクライナ(チェルノブイリ関連)支援>

チェルノブイリ・ホステージ基金と連携を取りながら様々な支援活動を展開。

- ・**ミルクキャンペーン**：現在、キャンペーン中です。毎年キャンペーンを行って、集まったお金で粉ミルクを購入（今は現地で購入）し、幼稚園・小児病院・孤児院の赤ちゃんに届けています。チェル救設立当時から続けている大切な活動の一つで、赤ちゃんの内部被ばくを防ぎたいという願いがこもっています。30年以上経っても、内部被ばくの危険はなくなっています。



- ・**被災者団体支援**：チェルノブイリ原発事故の際、事故処理作業にあたって多くの放射能を浴びた人々が作った団体を支援しています。チェル救からホステージ基金を通して各団体に渡された寄付金は、メンバー一人ひとりに分配され、薬購入など健康維持のために使われています。また、各団体が使う医療機関の機器購入の支援などにも当てられます。高齢になってきたメンバーの健康に、放射能は様々な影響を与え続けています。行政からの支援もほとんどなくなる中、新型コロナウイルス感染のリスクが新たに加わり、メンバーは、とても厳しい状況におかれています。今年度の支援は、一部を病院の新型コロナウイルス対応のための機器購入に当てた後、一人ひとりに渡されました。一人ひとりに渡される額はわずか（900～1000円）ですが、心潤す一滴になればと願ひます。

### <福島支援>

- ・南相馬市・浪江町・富岡町・大熊町を対象にした、放射状汚染マップ作成および配布  
福島第一原発事故後、半年毎に1回実施して、汚染の推移を継続的に調査（今年の秋の測定は中

止)。来年春に測定を実施した後、10年のまとめとなる冊子を発刊する予定です。

・放射能測定センター・南相馬（通称：とどけ鳥）支援

地元の方々が測定を依頼したり、自ら調査のために採取した農作物・飲料水・土壌などの放射能を測定。今年11月にセンターの運営をチェル救から地元に移管しました。

・菜の花で農地再生を目指す一般社団法人・南相馬農地再生協議会の支援

菜の花プロジェクトの成果（油には放射能が移行しない性質の実証）を生かす形で、菜の花栽培とナタネ油「油菜ちゃん」関連商品の生産・販売を行っています。栽培面積は増えましたが、販売が伸び悩み、安定した事業としていくには多くの課題があります。事業が安定するまで、チェル救も主要メンバーとして農地再生協議会に参画して、サポート（非営利で）していく予定です。

## <ウクライナ・福島との交流>

・クリスマスカードキャンペーン

新型コロナウイルスの影響が危惧されましたが、今年もたくさんのカードが寄せられています。ウクライナ、福島の被災者の方々からも多くのカードが届いています。

◆チェル救の財政状況

10月末残高 389万円 収入予定（寄付金除く）78万円 計467万円

今年度支出予定（来春測定含む）466万円（ウクライナ支援・福島支援・管理費等）

## クリスマスカードキャンペーンの

**ボランティアをさせていただいております 斉藤 です。**

こちらの会とは、15年ほど前から、味噌や梅干作りなどをご指導いただいている河田さんつながりです。20年以上に及ぶ子育てもそろそろ終了。現役人生の最終ラウンドをどのように過ごそうか、社会再デビューをひかえた今年度、人生初の喫茶店パートなど様々な経験をさせていただいていたところ、こちらのボランティア募集の案内を見て、関わらせていただくことになりました（他に手を挙げた方がみえなかったのが想定外でした…）。



感想をということですが…カードが届いた段階ですと、また違うのでしょうか…本当に大変です。このような地道な作業を、人知れず何十年も続けてみえるスタッフ&昔からのボランティアの方々に頭が下がります…というのが一番。現在は、全国から届いたカードや折り紙をセットにして、何日もかかって袋詰めしているところです（まもなくウクライナに発送）。

そんな作業を続けることができるのは、皆さまから寄せられるカードや折り紙などのおかげだということを実感中でもあります。たくさんの手作りぬいぐるみ、力作のカード、「一年かけて折りました」というたくさんの折り紙等々から、子どもたち・グループホームの方々・教会関係など、みんなが手間を惜しまず、自分ができることをしよう…という気持ちが伝わってきて、心が癒されます。温かい気持ちを伝えるお手伝いをさせていただけること、本当に幸せな役割のように感じます。

カードを受け取る子どもたちが感じるのは、（これだけ長い間続いていると、年賀状と一緒に？）「今年も届いた」という安心感という嬉しさなのではないかと思われまます。

このキャンペーンが広く長く続くよう、今後も、一人でも多くの方にこのキャンペーンを紹介していきたいと思います。（11月26日）

**I wish you a merry Christmas and a Happy New Year !**

## 2020年度上半期 活動計算書

特定非営利活動法人チエルノブイリ救援中部  
(特定非営利活動に係る事業会計)

(単位:円)

自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日

科目		金額	
<b>【経常収益】</b>			
1. 受取会費	正会員受取会費	120,000	
	賛助会員受取会費	219,000	339,000
2. 受取寄付金	粉ミルク支援	102,000	
	FL/AA/ 伊支援(被災者団体)	35,500	
	福島原発被災支援	120,500	
	一般寄付	2,939,100	3,197,100
3. 受取助成金	ラッシュュジャパン	1,300,000	
	東海地域NGO活動助成	200,000	1,500,000
4. 事業収益	福島支援事業	119,954	
	イベント関連事業	0	
	啓発事業	0	119,954
5. その他の収益	受取利息	11	11
経常収益 計			5,156,065
<b>【経常費用】</b>			
1. 事業費			
(1) 人件費	給料手当・日当	120,000	
	人件費計	120,000	
(2) その他経費	業務委託費	450,000	
	支援金	120,000	
	印刷製本費	383,595	
	旅費交通費	835,288	
	通信費	33,600	
	荷造運搬	104,998	
	消耗品費	13,590	
	賃借料	11,000	
	仕入	126,870	
	諸会費	10,000	
	支払手数料	40,811	
	雑費	0	
	その他経費計	2,129,752	
事業費 計			2,249,752
2. 管理費			
(1) 人件費	給料手当	844,300	
	法定福利費	4,357	
	人件費計	848,657	
(2) その他経費	通信費	100,652	
	水道光熱費	42,438	
	消耗品費	77,311	
	印刷製本費	20,287	
	地代家賃	396,000	
	保険料	7,730	
	租税公課	600	
	諸会費	30,000	
	支払手数料	50,610	
	雑費	0	
	その他経費計	725,628	
管理費 計			1,574,285
経常費用 計			3,824,037
当期正味財産増減額			1,332,028
前期繰越正味財産額			2,820,299
次期繰越正味財産額			4,152,327

※定款(事業)第5条に基づく「その他の事業」は実施していません。

## 2020年度上半期 財務諸表の注記

### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)による。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
棚卸資産の評価基準は原価基準、評価方法は最終仕入原価法による。
- (1) 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。
- (2) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込経理方式による。

### 2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

科目	医療機関支援事業	粉ミルク支援事業	被災者団体支援事業	クリスマスカード事業	業務委託事業	通信誌発行事業	イベント関連事業	派遣事業	福島原発被災支援事業	啓発事業
<b>【経常収益】</b>										
受取寄付金 (指定寄付)		102,000	35,500						120,500	
受取寄付金 (指定なし按分)			164,589	26,453	123,442	129,321	94,051	123,442	1,351,986	
受取助成金							200,000		1,300,000	
事業収益									119,954	
その他の収益										
経常収益 計	0	102,000	200,089	26,453	123,442	129,321	294,051	123,442	2,892,440	0
<b>【事業費】</b>										
(1) 人件費 給料手当・日当									120,000	
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	120,000	0
(2) その他経費										
業務委託費					450,000					
支援金					120,000					
印刷製本費		1,547		1,548		78,000			302,500	
会議費										
諸謝金										
旅費交通費									835,288	
通信費						30,176			3,424	
荷造運搬費						104,998				
消耗品費				943				2,767	9,880	
地代家賃										
水道光熱費										
貸借料								11,000		
仕入									126,870	
新聞図書費										
保険料										
諸会費									10,000	
支払手数料		2,355	10,927	36	20,000				7,493	
雑費										
為替差損										
その他経費計	0	3,902	10,927	2,527	590,000	213,174	13,767	0	1,295,455	0
事業費計	0	3,902	10,927	2,527	590,000	213,174	13,767	0	1,415,455	0
当期経常増減額	0	98,098	189,162	23,926	△ 466,558	△ 83,853	280,284	123,442	1,476,985	0

2020年度上半期(2020年4月1日～同年9月30日)の会計報告を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2020年 11月 18日 監査人 神野美知江 ㊞

今年度上半期は、コロナの影響もあり活発な活動ができませんでした。年度初めに予定されていた、設立30周年企画の講演イベントも中止になり、南相馬のマップ作りも測定隊派遣は中止とし、地元協力者のみで行われることになりました。また、他のイベントの企画も難しくなり、総事業費は昨年に比べ122万円減少しました。また、寄付や会費・事業収入なども194万円減少しています。一時的に、給付金などの影響もあったのが、寄付が増えた月もありましたが、全体的には減少傾向にあり、依然として厳しい状況です。南相馬の測定マップ事業で獲得した助成金など、確保しておくべき資金を除くと、実質来年度の運営費が残らないこともあり得ます。

どうかみなさま、何卒温かいご支援を切にお願い申し上げます。(会計係 兼松真梨子)

## 事務局便り

11月7日、名古屋女子大学中学校の生徒さん達6名と先生が、事務所にみえた。土曜講座(NPO 団体訪問)＝中学生の校外学習である。「クラスの枠にとらわれず、同じ興味を持つものでグループを作り、下準備をしたうえで、名古屋市内各所にある NPO 団体を訪問し、国内外に存在している諸問題に関する学びを深め、ボランティアや体験活動にも携わり、そこで働く人の思いに気づく」との趣旨で毎年行われている。我々にとっても貴重な時間である。河田理事は、予め出された様々な質問に答える形で、パワーポイントでレクチャー。

その後は、戸村理事の豊富なウクライナ体験の話を変え、先生も含めてカード作りをしていた。楽しい力作ぞろいのカード！ウクライナへ、無事届きますよう。(山盛)

## お知らせ

### 楽天市場の「油菜ちゃん店舗・・・閉店します」

昨夏から楽天市場に出店していた「油菜ちゃん」の店舗は、福島県の店舗出店費用助成が終了し、残念ながら12月末をもって閉店することになりました。ご利用して応援していただいた皆さま、今まで本当にありがとうございました。2021年からは、「南相馬農地再生協議会(TEL/Fax 0244-23-5611)」または「チェルノブイリ救援・中部(表紙下 参照)」の事務所、ネット通販では「モンベル・フレンドマーケット」をご利用いただき、今まで以上に「油菜ちゃん」を、お手もとに置いていただくようお願いいたします。(美)

これからもよろしく  
お願いします!!



## 編集後記

☆自宅前の5階建てのビルが解体され、その後新しいビルの建設の予定がコロナで頓挫し、だだっぴろい空き地のまま。空が広がり気分爽快！コロナのお陰かと思うと複雑な心境...。(佳)

☆自分時間を過ごせるようになった。どこ行く？と声に出す前に、またまたコロナで移動制限が！私だって感染するのはお断り、もうしばらくジッと我慢の閉じ籠りの日々...まだかなあ。(美)

☆11月某日、2ヶ月前(2020年9月20日)双葉町にオープンした「東日本大震災・原子力災害 伝承館」を見学した。「公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構」が開設した、立派過ぎる(建設費のかかり過ぎた)施設ではあるが、その分、展示内容は多岐にわたり豊富であった。事故から現在に至る、被災者の過酷な経験や復興努力が、映像やパネル展示により詳しく記録されており、知らなかった(&忘れかけていた)新しい発見も数多くあった。今後、まだ語り継がれていない内容(事故の原因究明・健康を含む被害の実態・再発防止策...etc.)が付け加えられ、真に継承すべき「伝承館」としての役割を担ってくれることを期待している。

<追記>「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」の作成した「汚染マップ」が展示されたコーナーもあった(右の写真参照)。皆様も、現地を訪れる際は、是非とも見学されることをお勧めしたい。(J)



<展示されている「放射能測定センター・南相馬(とどけ鳥)」が作成した測定マップ>

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷 「**エープリント**」

TEL・FAX (052) 871-9473